

#### IV. 2023 年度 開講科目・履修者数等一覧

##### □2023 年度 立教サービスラーニング(RSL)センター開講科目・履修者数一覧

(講義系科目:10 科目)

科目名 (科目担当者)	キャンパス	開講学期	履修者数
「大学生の学び・社会で学ぶこと」(中川英樹)	池袋	春学期	196
「大学生の学び・社会で学ぶこと」(福原充)	池袋	春学期	194
「大学生の学び・社会で学ぶこと」(中沢聖史)	新座	春学期	91
「大学生の学び・社会で学ぶこと」(中沢聖史)	池袋	秋学期	94
「シティズンシップを考える」(林大介)	新座	春学期	11
「シティズンシップを考える」(堀本麻由子)	池袋	秋学期	192
「SDGs と現代社会の課題とその関わり方入門」(中沢聖史)	池袋/新座	秋学期	228 / 75
「デモクラシーとリベラルアーツ」(中沢聖史)	新座	春学期	26
「カーボンニュートラル人材育成講座」(河村賢治・村上千里)	池袋/新座	秋学期	39 / 10 (定員 80)
「RSL ゼミナール」(中沢聖史) ※本科目は演習系科目である。	池袋	春学期	30 (定員 30)

(実践系科目:7 科目)

科目名(科目担当者)	キャンパス	開講学期	履修者数
「RSL-コミュニティ(池袋)」(福原充)	池袋	秋学期	20 (定員 20)
「RSL-コミュニティ(埼玉)」(田中聡一郎)	池袋	秋学期	13 (定員 15)
「RSL-ローカル(南魚沼)」(高野孝子)	池袋	秋学期	15 (定員 15)
「RSL-ローカル(地域共生)」(加賀崎勝弘)	池袋	春学期	15 (定員 15)
「RSL-グローバル A」(今村和志)	池袋	秋学期	12 (定員 20)
「RSL-グローバル B」(中沢聖史)	池袋	秋学期	休講 (定員 15)
「RSL-グローバル(フィリピン)」(中沢聖史)	池袋	秋学期	15 (定員 15)

(敬称略・2023 年度履修者数[のべ数]:講義系科目 1,186 名、実践系科目 90 名)

※<付記>講義系科目の履修者定員は、「カーボンニュートラル人材育成講座」「RSL ゼミナール」を除き、教室配当によって毎年変化する。

## □立教サービスラーニング(RSL)科目履修者数統計

年度	実践系履修者人数 (科目数)	講義系履修者人数 (科目数)	合計 (総科目数)	学部学生数 (%)
2016年度	50(4科目)	714(9科目)	764(13科目)	19,446(3.9%)
2017年度	90(5科目)	617(9科目)	707(14科目)	19,522(3.6%)
2018年度	92(5科目)	868(9科目)	960(14科目)	19,379(4.9%)
2019年度	114(5科目)	781(9科目)	895(14科目)	19,380(4.6%)
2020年度	50(6科目)	671(9科目)	721(15科目)	19,237(3.7%)
2021年度	73(7科目)	824(9科目)	897(16科目)	19,089(4.6%)
2022年度	90(7科目)	1,069(10科目)	1,159(17科目)	19,100(6.0%)
2023年度	90(7科目)	1,186(10科目)	1,276(17科目)	19,467(6.5%)
合計(人)	649(人)	6,730(人)	7,379(人)	

※①学部学生数は立教大学公開資料「学生定員および在籍学生数(各年度の5月1日)」を使用

②パーセンテージは学部学生数に対する立教サービスラーニング(RSL)科目履修者数を算出(小数点第2以下は切捨て)

③履修者の中には、同一年度に複数のRSL科目を履修している、あるいは複数年度にわたって、継続してRSL科目を履修する学生がいる。

④2020年度はコロナウイルス感染拡大の影響から、実践系科目は開講6科目中3科目が休講となった。講義系科目の履修者定員も教室定員によってではなく、コロナ下での特殊な状況下での設定となっている。

## □メディア・情報誌掲載等(2023年度)

立教サービスラーニング(RSL)センター

・「立教サービスラーニング(RSL)の新展開—SDGs、カーボンニュートラルの実現に向けて」、立教大学HP(トピックス), 2023.4.24

<https://www.rikkyo.ac.jp/closeup/topics/2023/mknpps0000024s39.html>

・「成長につなぐ—事例17 ゴールズ&169 ターゲット(171)立教大学」, 日刊工業新聞, 2024.1.30.

「RSL-ローカル(地域共生)」

・「熊谷に子ども食堂を 立教大学生と市民混合チーム グランプリ受賞」, 埼玉新聞, 2023.4.7.

・「総合賞は熊谷市チーム。学生チームが躍進し、実践的なアイデアを提案—チャレンジ!! オープンガバナンス2022」, 『月刊ガバナンス』265, p.38-39, 2023.5.

・「連載 大学倶楽部・立教大 社会の課題を解決する取り組み『子ども食堂フォーラム』6月24日開催」, 毎日新聞, 2023.6.20. <https://mainichi.jp/univ/articles/20230619/org/00m/100/003000c>

・「居場所づくりを考える 熊谷で子ども食堂フォーラム」, 埼玉新聞, 2023.6.26

「RSL-ローカル(南魚沼)」

・「雪国の自然と暮らしから学ぶ—立教大学サービスラーニング(RSL)をお手伝い」, 『特定非営利法人 ECOPLUS 会報 PLUS』53, p.4-5, 2024.2.14.

## □他大学などからのヒアリング受け入れ(2023年度)

・国土交通省荒川下流河川事務所地域連携課、京都外国語大学国際貢献学部(教員)